

美を創る

上京の史蹟®

上京区民薪能

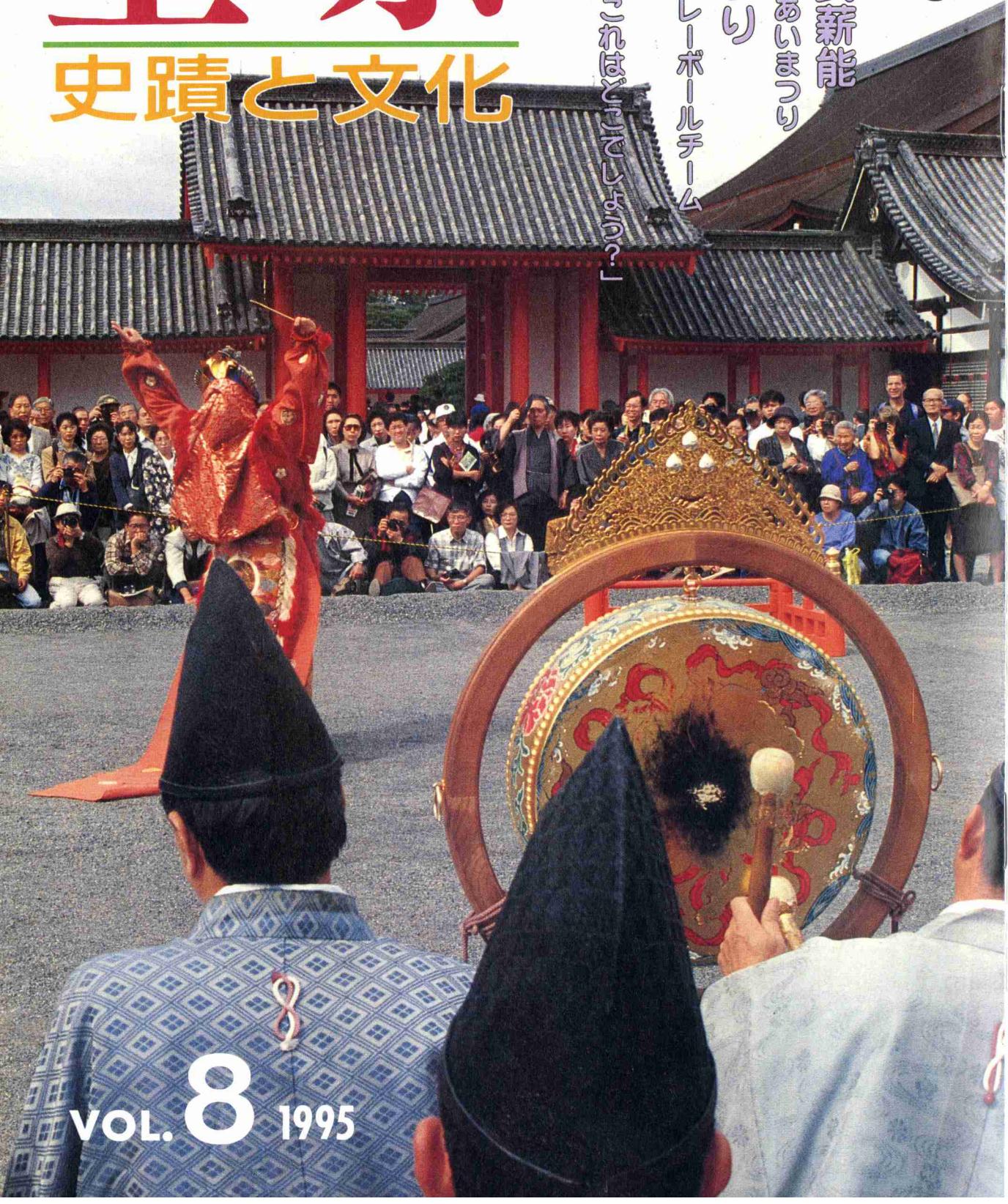
上京区民ふれあいまつり

京都まつり

上京区女子バレー・ボールチーム

読者の声  
上京クイズ「これはどこのだいしょ(ん)?」

# 上京 史蹟と文化



VOL. 8 1995

# 美を創る

## 河合美術織物株式会社

社長 河合大介

京都市上京区堀川通寺之内上る

巨大な銀杏並木が道路の中央を貫く堀川通。その寺之内の角、周囲には西千家や人形寺で名高い宝鏡寺門跡などの点在する上京の文化ゾーンの一角に美しい六階建てのビルが聳えている。それが西陣帯匠・河合美術織物の本社である。

その歴史は明治四十一年（一九〇八）に遡る。この年、下鴨河合 一方、日露戦争後の好不況が断続的に訪れ、不安定な時期でもある神社の社家の一族である初代・河合政次郎が、衣棚今出川上の畠山町において唐織の製織を始めた。当時の西陣は、海外から輸入されるジャガードや力織機等によつて近代工業化が進みつつあつた。それに伴い新技術を駆使した新しい製品が続々と発表されていたが、

た。特に創業の年は、生糸が大暴落し、西陣関係業者の倒産が相次いだ。このような多難な年、政次郎が従来の技法を用いる唐織を主体として、弱冠二十歳の若さで、あえて創業したのは、まさに冒険心に溢れたパイオニア精神の表れであつたろうと推察する。



写真と文：中島孝迪



昭和三年（一九二八）、第一次大戦や関東大震災後の不況下、二代目・太三氏（現会長）が家業に従事。初代と力を合わせ家業の発展に尽力された。その結果、第二次大戦中や戦後の統制経済下にあっても通産省の手工業技術保存者の指定を受け、西陣織技術保存のため多大の貢献をされたと聞く。

昭和三十五年、池田内閣の経済成長政策が始まるや、西陣もまた活況を呈する。そうした中、多年の研鑽が報いられ、河合織物は西陣織物大会において通産大臣賞や知事賞を数次に亘り受賞された。

現社長・河合大介氏を中心には、古典を学びそれを現代の感性で育み、美術織物と呼ばれるに相応しい芸術性を兼備したプロデュースを生涯の命題とし、次代へと継承して行くことを、経営の根幹として発展を続ける河合美術織物は、平成二年四月、現在の本社ビルを完成させた。その一階には新しく小売部門を開設、直接消費者とのコミュニケーションを計り、常に時代に即応した経営理念のもと、和装業界の不況が叫ばれる今日、西陣の火を絶やす事なく業界振興のため切磋琢磨を続けておられる。



本社ビル1階ショールーム

昭五十三年、三代目・大介氏に社長を譲られた太三氏は、会長に就任。父・政次郎氏と共に、若き日情熱を注いだ唐織の集大成ともいうべき能装束の復元に全精力を傾倒される。「燃えて尽きたし」の精神で培われた努力の甲斐あって、昭和五十九年、能楽金剛流二十五世宗家・金剛巖師の指導、監修のもと、徳川中期の能装束名品十領の復元を完成、京都、東京、大阪において盛大な展覧会を開催され、絶大な好評を博された。

# 上京の史蹟

その八

## 上京の歴史的推移

### 激動の明治維新

十九世紀後半の日本は、近代的な軍事力と歐米資本主義諸国とのアジア進出の圧力に直面していました。幕藩体制の動搖が深まりつつある中、政局は元治元年の「禁門の変」によって焼け野原と化し、いまだ十分に復興されていない京都の街を、激動の嵐の中に巻き込んでいったのです。幕府を中心とした従来の幕政を継承するか、徳川政権を解体し、全く新しい政府を創設するかを巡り、実際に様々な政治的駆け引きが行われ、まさに血で血を洗う殺戮が繰り広げられていました。当時、京都の街には、諸国から大名に率いられた数多くの兵士たちが溢れ、武家屋敷は増築拡大され、寺院もまた、諸大名の本陣と化し、新しい時代の黎明にも拘らず、あたかも、武家政治の様相を呈



大政奉還の行われた二条城二の丸御殿

慶喜は、討幕運動の機先を制するため幕政の返上（大政奉還）を行います。これは朝廷には未だ政治的能力も機構もなく、実質的には幕府が実権を持ち続けられるであろう、と言う確信の上でのものでした。しかし、この疑惑は見事に裏切られ、同年十二月に王政復古の大号令が発せられ、小御所会議において、慶喜の内大臣辞職、幕府領の朝廷への返納が決議されます。二条城を撤退し、大阪に終結していた幕府軍は、この方針に憤慨し京都へ進撃、新政府軍と対決することになったのです。慶応四年（一八六八）一月三日、鳥羽・伏見の戦いを皮切りに日本各地で激しい戦闘が始まりました。鳥羽・伏見の戦いにおいて勝利をおさめた新政府軍は、江戸へ引き上げた慶喜を追い、江戸城へ総攻撃をかけます。これを受けた慶喜は、長引く戦乱による国内の動搖が外国からの軍事介入を招く恐れがあるのと、市民の反乱を避けるため三月十五日、抵抗すること無く江戸城をあけ渡しました。しかし、会津藩を始め東北地方の諸藩は、なお、新政府軍に反抗する態度を示します。各地での激戦の末、敗走した幕府軍の残党は函館の五稜郭に立て籠もり最後の抵抗を試みますが、近代兵器で武装した政府

軍には抗し切れず、明治二年（一八六九）五月、遂に降伏して一連の戦い（戊辰戦争）は終わりを告げ、幕府の封建的支配体制は事実上崩壊します。新政府軍の勝利は、経済活動にとつて大きな障害となっていた幕藩体制の崩壊により新たな統一国家が建設されるという点で、一般民衆にとっては大きな意味を持つたのです。社会はこうして変革を遂げ、天皇を中心とする中央集権国家のもとで、京都は維新政府唯一最大の拠点都市・帝都となつたのです。しかし、領土的基礎の広がりや行政事務の複雑多岐化を迫られる新政府は、未だに関東と奥羽諸藩には力が及んでいないと言う問題を抱えていました。全国統治の課題を抱え、もはやなった新政府内から、やがて遷都論を唱える声がおこります。実質的指導者である大久保利通は大阪への遷都を申し、慶応四年（一八六八）、大阪親征となつてあらわれますが、結果的に京都のみの局地的な統括ではすまなくなつた新政府内から、やがて遷都論を唱える声がおこります。実質的指導者である大久保利通は大阪への遷都を申し、慶応四年（一八六八）、大阪親征となつてあらわれますが、結果的に京都に天皇政権の首都を置き、天皇権威でその勢力を鎮圧して民心を安定させよう、という意見が大勢を占め、東京遷都論が濃厚になつてきます。慶応



明治2年、東京遷都に反対し群衆が詰めかけ  
お千度を踏んで気勢を挙げた御所・石薬師門

ちうけていました。遷都による公家・志士・官吏達の東上にともない、有力商人たちも先を争つて京の街を離れ、新しい首都・東京を目指し、維新当時の七万戸といわれた京都の戸数は瞬くうちに一万戸余りを減らすことになりました。しかし、こうした政治・経済の主力の流出による市中の空洞化の中、京都市民は改革への意欲に燃え、立ち上がりつたのです。京都府は、遷都による街の衰退の復興と人心をなだめるために、京都府初代知事・長谷信篤（ながたに のぶあつ）が中心となり租税の免除と産業基立金十円を中央政府に要請し下付された他、

四年（一八六八）七月、ついに新政府は江戸を東の京都、即ち、東京とし、九月には年号を明治と改めました。天皇は十月と翌年の三月に東京へ行幸され、江戸城も東京城と改名して皇居となりうる様相を整えます。この長期間に亘る天皇の京都不在は、遷都によって天皇が京都を去られるのではないか…という不安を洛中の庶民の中につのらせてゆきました。まもなく、天皇に統いて皇后も東行されるという噂が流れ、人々は不安におののきます。

明治二年（一八六九）九月二十四日、京都市中は朝からただならぬ雰囲気が

組」と記した旗を立てた群衆が御所石薬師門前に詰め掛け、皇后の東行反対と天皇の還幸を求め、お千度（現在でいうデモ）を踏み、遷都中止を懇願しました。その数およそ千人、気勢を挙げる人々も興奮していましたが、それを見物にきた者までが興奮のつぼと化して收拾のつかぬ状態であったといわれています。しかし、そのような庶民の訴えも空しく噂の通り皇后の東行は決行されます。こうして、京都は首都の座を東京に明け渡すことになつたのです。

明治二年（一八六九）三月の商法廢止とともに、もはや植産興業政策で勧業基立金十五万円の支給を受けました。府はこれら両基立金を運用して、いよいよ本格的な勧業活動の推進を行い、京都市民もまた、逸る心を押さえ、衰微せんとする京都の再興に向け、全力投球をするのです。その顯著な例が、西陣を中心とする織維産業であつたといえましょう。

幕末の経済不安の中で規模を縮小していった京都の染織業界では、維新後の西洋文化の流入にともない、西洋技術を取り入れ融合化してゆく方法を模索します。明治五年（一八七二）の京都府調査資料によると、幕末から明治にかけて京都の織維関係に携わる者は西陣を中心として一万一千戸を越え、全職業の二十二パーセントにも達していくました。一方、中央政府では洋風化対策を探る中、明治五年、大政官令により

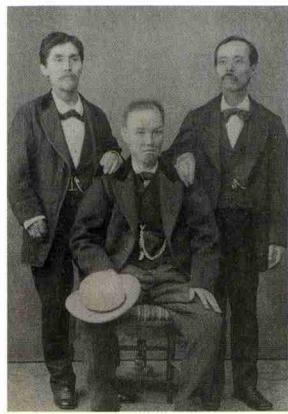
(京都府立総合資料館蔵)

大吉堂会社

西陣織物の大きな需要の一つであつた官公庁の和装の諸装束を廃止、新制服による官服はすべて洋服化されてしまします。しかし、この洋風化政策は、モスリン、ビロード、羅紗<sup>らしゃ</sup>、天竺<sup>てんしゆく</sup>など洋服生地の大量輸入につながり、国家財政に大きな負担を招くことになりました。新政府は、なんとか日本を世界の列強に比肩する強国に成長させようと躍起になつていきました。そのためには、まず財政基盤を脅かす纖維製品の輸入を防ぐことが最重要課題であります。そこで纖維製品の国産化を計ります。この施策を受けた京都府は、「西陣物産会社」を設立しました。これは、染織製品の需要家であつた官吏や公家、武家、そして、染織品の良き理解者であつた文化人を始めとする裕福な顧客を失い衰退していた西陣にとって活気を取り戻す糸口になります。

全ての染織業者は、部門別に十八の会社に分けられて物産会社の元に統合し、会社は資金を貸与して保護と援助をする仕組みになつていました。翌年には市内に支所を、東京と大阪にも出張所を設けて西陣織物の販売の拡張に乗り出します。また、それと同時に、原料

の共同購入や二元的な集荷を行わせるなどして流通部門の改革も試みました。この頃から、府は欧米諸国から多くの雇い外国人を月給三百円から四百円の高給で招いておりました。当時、物産会社の世話役であった竹内作兵衛がジヤガードの導入を強く進言したこともあり、府は明治五年（一八七二）、物産会社の推挙によって西陣機業界の佐倉常七と井上伊兵衛をフランスへ留学生として派遣することを決定します。



写真左から吉田 忠七・井上伊兵衛  
佐倉 常七

（財団法人西陣織物館蔵）

二人に続き、西陣の吉田忠七も同行を懇願します。前の二人については官費による渡欧で、修業年限一ヶ年以内、八ヶ月を修業期間に当て、経費は一人一ヶ月百ドル、機械購入費千ドル、往復旅費一人千ドルの計六千四百ドルが支給されました。しかし、吉田については官費の適応が認められなかつたた

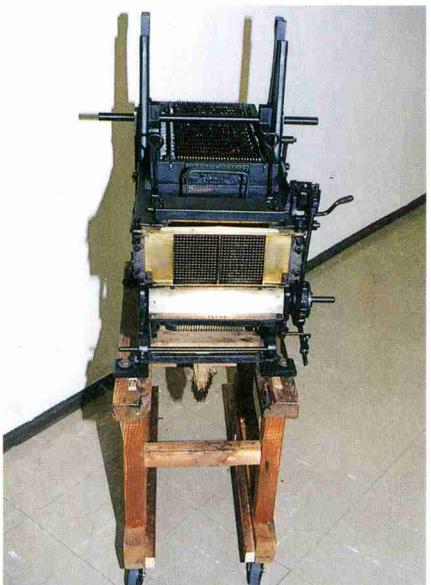
め、物産会社世話人一同の依頼により渡航費を将来に分割して返済することでの府が立て替える事になりました。三名の留学生は、ヨーロッパの染織品に精通していたレオン・ジェリーの尽力によつてリヨン市に滞在し、言葉の不自由を克服しつゝ、洋式織物の基礎知識から織物技術に至るまでを修得します。八ヶ月で初期の目的を達成した佐

倉と井上は、今一層の修業を希望した吉田を残し、購入した機械とともに明治六年（一八七三）十二月、京都に帰着しました。直ちに両名は、持ち帰ったジヤガードやバッタンを含む十種類の革新機械の性能を披露し、その必要性を説きます。ヨーロッパにおける染織業界の情報を聞いた西陣業界は、政府や府に対し平織と綾織の機械の購入

を懇願しました。その結果、両機械それぞれ付属品ともで十台ずつ、二千五百円で発注され、明治七年（一八七四）二月に輸入されます。しかし、これら機械の到着と相前後して、フランスから帰国の途に就いていた吉田は、故国を目の前にした伊豆沖で暴風雨により乗船していたニール号が遭難し、帰らぬ人となりました。

また一方、オーストリアのウィーン万国博覧会への政府使節団の一員として、西陣の工芸家・伊達弥助とその手代・早川忠七が渡欧しました。この二人も滞欧二年後、オーストリア式ジヤガードを始め、千二百点余りの織物用機械器具と参考品を持ち帰りました。

海外から持ち込まれたこれらの機械の中で、日本古来のものと構造が最も異



ベンドール・ジャガード  
(財団法人西陣織物館蔵)



荒木小平製作による木製ジャガード  
(財団法人西陣織物館蔵)

ドを用いて製織されています。しかしその反面、織物の大量生産の実現にとどまらず、粗悪品が出回るという事態も生じました。これを防ぐため京都府は明治十年、「西陣織物会所」を設け、製品検査を行い、品質の保証と織工や仲買人のライセンスを発行する機関を設立します。伝統を守るべく製品の品質管理と技術の革新によって、西陣の蘇生にかけた無名の府民の努力は多大なものがありました。

斜陽化してゆく京都を復興するための勧業政策の一つに博覧会の開催が挙げられます。すでに幕末の一八六七年、パリで開かれた万国博には徳川幕府が正式に参加し、その意味や機能などが知識人の間で評判になっていました。その後、明治六年のウィーン万国博への参加によつて、日本の当局者たちは国際見本市としての認識を深めてゆきます。こうした中央での動きに対応して、京都でも博覧会開設の気運が盛り上がりつきました。その最初は、京都在住の有力商人によって明治四年十月十日から一ヶ月に亘って本派本願寺で開かれ、寂然としていた京の街を再生しようと試みました。しかし、展示された品は古物が中心で、勧業という観

を発し、市民に出品を勧めます。こうして博覧会の準備が着々と進められ、一方、当時はまだ外国人の国内自由旅行が許されていなかったので、外国人の特別入京許可を政府に申請し、それが認められると各種の入京規則を定め、外国人観光客の誘致を行いました。

明治五年（一八七二）三月十日、西本願寺と知恩院、建仁寺で博覧会を開けました。当時、府参事であった楨村正直は、近代ヨーロッパの博覧会が国際見本市との特色に加え娯楽設備を持つことに着眼し、これを取り入れ抹茶席や「都踊り」を始め、花火大会や能などを興行して華々しい芸能の都アピールしました。官民一体の協力の甲斐あって博覧会は盛況を極め、八十

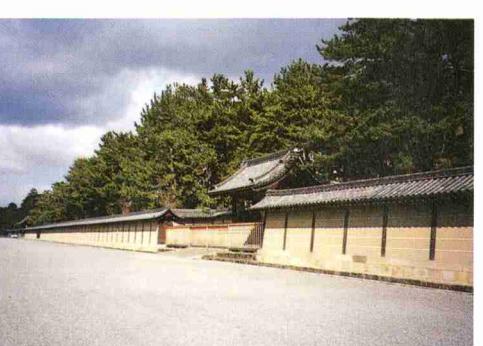


第2代京都府知事  
楨村正道  
(京都府立総合資料館蔵)

日間の会期をもつて終了しました。明治四年、府と市民が協力して博覧会を開設する計画が持ち上がり、官民合意の「京都博覧会社」が設立されます。時の府知事・長谷信篤は、会社に全面的援助を行い、それと同時に十五名の派遣吏員を任命します。市民の中からも有力商人や茶道三千家と藪内家などが加わり、総数三十四名で会社は運営されることになりました。博覧会社は明治五年に京都博覧会を開く計画を立て、知事もまた明治四年十二月に布達を発し、市民に出品を勧めます。こうして博覧会の準備が着々と進められる一方、当時はまだ外国人の国内自由旅行が許されていなかったので、外国人の特別入京許可を政府に申請し、それが認められると各種の入京規則を定め、外国人観光客の誘致を行いました。

明治五年（一八七二）三月十日、西本願寺と知恩院、建仁寺で博覧会を開けました。当時、府参事であった楨村正直は、近代ヨーロッパの博覧会が国際見本市との特色に加え娯楽設備を持つことに着眼し、これを取り入れ抹茶席や「都踊り」を始め、花火大会や能などを興行して華々しい芸能の都アピールしました。官民一体の協力の甲斐あって博覧会は盛況を極め、八十

治六年、博覧会社は東京遷都によって寂れてしまった御所周辺に着目し、第二次目の博覧会を旧禁裏御所と仙洞御所庭園で開催しました。開催中は皇居の六門が開かれたほか、清涼殿から内侍所まで一般公開され、御所内は賑わいを呈しました。第三回目からは大宮御所も借用され、明治十四年には市民の力によって御所東南の一万六千百八十九坪余りの敷地内に常設の博覧会場もできました。府は、当時、お雇い教師であつたワグネルにその建築計画を依頼し、建築資金六万八千五百円を上・下京区の全戸数六万三千二百七十六戸に割り当て、一月末に会場が完成しました。明治十七年の第十三回博覧会では、「都踊り」の夜間照明用に東京の大倉組からアーケード燈が借用され、京の人々は初めて電燈なるものを知りました。やがて年を重ねるごとに、博覧会は全国的な見本市として機能し始め、その名称も明治十九年からは全国製品博覧会などに変わってゆきます。こうして明治三十年に岡崎に博覧会館が完成するまでの間、御所は近代京都の勧業政策のデモンストレーション、並びに地方産業の振興の場としての役割を果しました。毎年開催される博覧会によって京の街が活気を取り戻つたある中、明治三十年代に入ると御所内には市立美術学校や府立図書館、相國寺敷地内にも同志社が設立されるなどして、御所周辺もまた、往年にひけをとらぬ文化の香り高い地域として生まれ変わったのです。



明治6年から13年まで京都博覧会の会場となった仙洞御所

EVENT

幽玄の世界へ誘う……

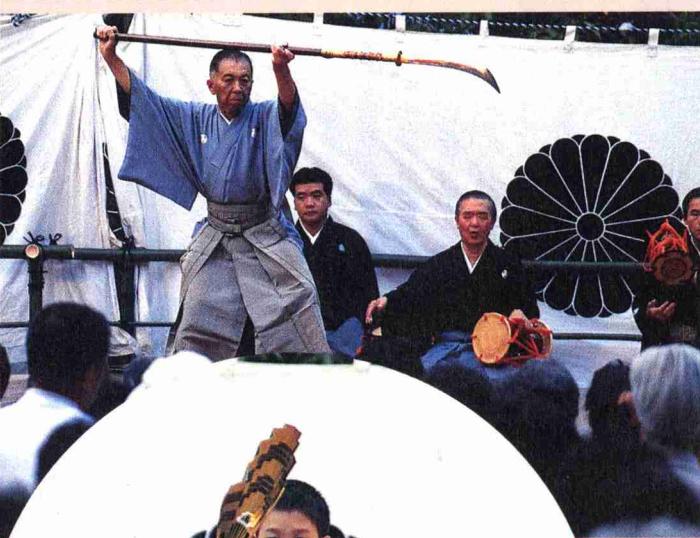
# 上京区民薪能

昭和四十年に始められた「上京区民薪能」も三十回を重ね、京都の秋の行事として定着してきました。九月二十

一日、白峯神宮境内の特設舞台では、能・舞囃子・仕舞・狂言・筝曲・舞楽が次々と上演されました。

午後四時半、上京区民によって第一部の演目が披露され、日没とともに西村尚・白峯神宮宮司によって火入式が執り行われ、第二部に入ります。

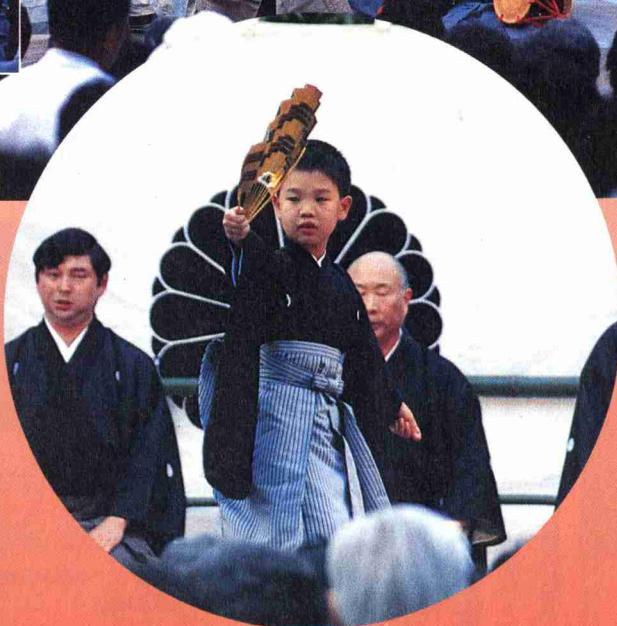
まず、いちひめ雅楽会の小学生による舞楽「蝴蝶」が上演されました。ついで金剛流の種田道雄師による舞囃子「高砂」のほか仕舞五番、宮城会の琴演奏「春の海」、茂山千之丞師の狂言「口真似」と進み、最後に観世流の能「石橋」が浅井宏悉・通昭両師によつて、めでたく舞納められました。



▲舞囃子  
熊坂

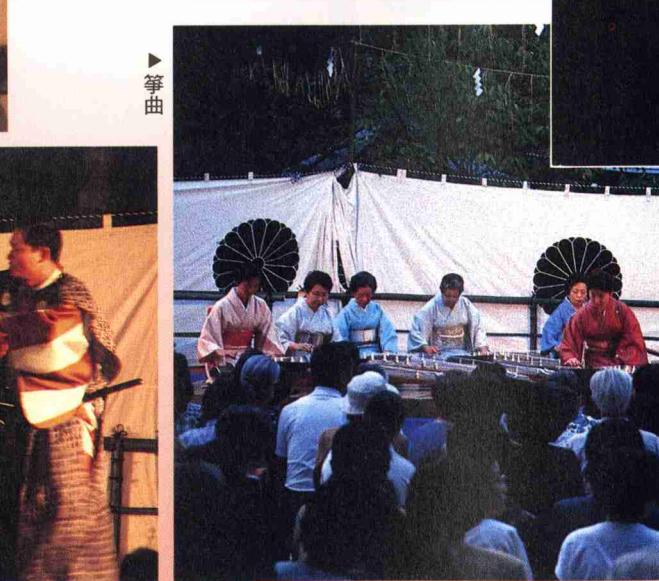


▲能 石橋



▲仕舞 合浦





平安建都千二百年記念

「京都まつり」前夜祭

EVENT

# ふれあいまつりから

## 京都まつりへ……

延暦十三年、山城盆地の北部に平安京が開かれた。

その中心、大内裏は今の「上京」の地域であった。

それから千二百年——

幾度かの戦乱、火災、震災を潜り抜けて

「上京」は今に生きつづけている。

その千二百年を区民の力で表現したのが「華の西陣」「京都まつり」で

ひときわ人々の目を惹いたフロートの飾りつけであった。

西陣織の裂地をまとった人形の群、

区民手づくりの造花——萩、桜、紅葉、

それに萩の色の衣裳も手づくり。

公家文化の中心をなす「京都御所」

足利将軍の「花の御所」

上京の産業「西陣織」

低迷する地場産業の活性化に

区民の祈りが結集して「華の西陣」が生まれた。

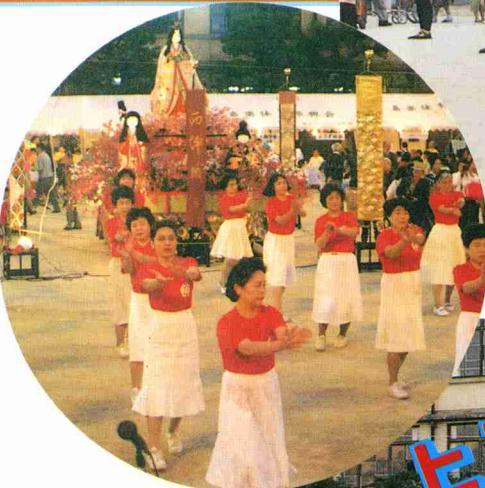
華の西陣 夢を織り 心ふれあう まち上京



平成六年度の「上京区民ふれあいまつり」は「京都まつり」の前夜祭として、十一月五日の午後四時から正親小学校の校庭で開かれました。成安女子高校のマーチングバンドを先頭に、上京区内小学生によって「華の西陣」のフロートが中立売通から校庭へ曳きこまれました。

西日を浴びながらフロートを囲んで催しが始まりました。マーチングバンドの演奏、上京区地域女性会連合会の会員による「上京音頭」の踊り、一転してジャズダンス、津軽三味線や和太鼓の演奏など、参加者を楽しませました。

力を合わせて「まつり」の準備



上京区民



菓匠 本家玉壽軒

〒602 京都市上京区今出川大宮東入  
TEL (075) 441-0319  
(075) 414-0319

内科・消化器科・循環器科  
呼吸器科・外科・整形外科  
小児科・放射線科・理学療法科  
人間ドック

医療法人 幸生会  
室町病院

〒602 京都市上京区室町通上立売下ル裏築地町88番地  
TEL (075) 441-5859

# EVENT

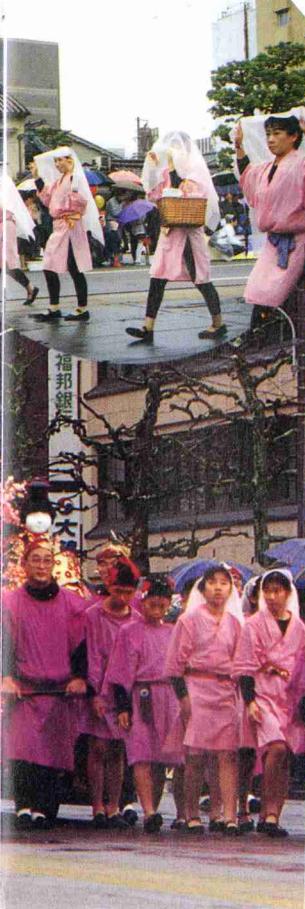
雨中行進  
平安建都千二百年記念

京都まつり

京都新聞社提供

「京都まつり」は平安建都千二百年事業の中でも、市民参加の最大の催しとして、十一月六日、御池通を会場に開かれました。当日はあいにくの雨、各区のフロートをはじめ、全国から集まつた郷土芸能や、業界、各種団体からの出し物と、終日賑かに繰り広げられました。

上京区からは区民三百人が参加して「上京音頭」を踊りながら、「華の西陣」のフロートを囲んで練り歩きました。十二単姿のお姫様に「上京」を象徴し、優雅さの中に涌き起る上京のエネルギーを表現させました。



夷川五色豆



豆 政

本店／〒604 京都市中京区夷川通堺町東  
TEL.075(211)5211~3  
三条店／〒604 京都市中京区三条通河原町東  
TEL.075(255)0390

イタリアが好き!  
イタリア料理専門店

レストラン

フクムラ

河原町店 中・六角河原町東入 255-5733(火・休)  
四条店 中・富小路四条上ル 255-2060(水・休)  
(株)イタシヨク(イタリアワイン・食品輸入元)(小売歓迎)  
北・紫野大徳寺門前町 491-0900



昭和四十四年に上京区文化振興会が  
区民から歌詞を公募し、沢田秀雄氏の  
作曲、花柳可寿雅さんの振付によつて  
作られたものです。当時は夏の夜に各  
小学校の校庭などで踊の輪ができると  
伝えられています。今回、京都まつり  
参加を機に柳田恵之扶氏によって編曲  
されました。区民の音頭としては草分  
けとされる「上京音頭」を再び盛んに  
したいものです。

## 上京音頭で ふたたび をどりの輪を

かものせ セーーらー が ナーす 一きよー<sup>(レ)</sup>  
 ごほのみどりもあざやかに はなー<sup>(レ)</sup>  
 おるーおーとも にざー やかなー<sup>(レ)</sup>  
 あおじこうじのにしーじんや ほんに かみぎょうよいとこ  
 3 アほんにかみぎょう よいーとこ 3 ー



あたたかい看護と治療で  
地域医療に貢献……

特定医療法人 **相馬病院**

〒602 京都市上京区御前通今小路下ル南馬喰町911番地  
TEL. 075(463)4301代

平安建都千二百年記念スポーツ交流

## 上京区女子バレー ボールチーム 中国西安市でスポーツ親善に大活躍!



上京区の女子バレー ボールチームが  
中国西安市でのスポーツ交流に派遣さ  
れることは、前号で速報しましたが、  
その活躍ぶりをお知らせします。  
この交流は、平安建都千二百年を記  
念するとともに、京都市と西安市との



姉妹都市提携二十周年を迎えたことに  
よって昨年十一月二十日に西安市人民  
体育場で行われました。西安女子チー  
ムとの試合は一勝一敗でしたが、上京  
の女性パワーを發揮して、親善を尽く  
すことができました。



参加した区民は次の方々です。

選 手 副 団 長  
監 督 松 本 雅 年 (正親)  
河 井 治 美 (仁和)

北 村 友 香 (室町)、宮 崎 香 織  
(西陣)、山 本 美 保 (桃園)、  
清 水 望 (桃園)、上 野 和 代  
(仁和)、坂 口 和 子 (仁和)、  
中 安 邦 子 (正親)、田 中 千 晴  
(小川)、本郷 瞳代 (桃園)

永年の信用と実績  
真心のこもったご奉仕

葬祭センター 株式会社

# 公益社

本社

鳥丸三条下ル ☎ (075)221-4116(代)

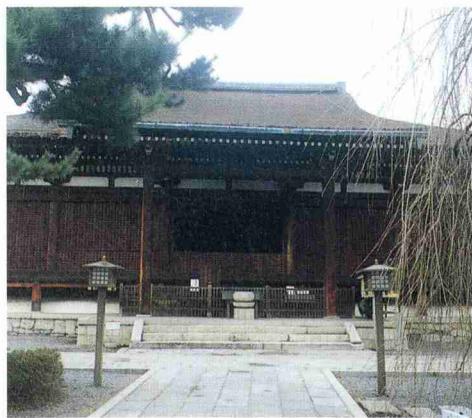
北 公 益 社 / 京都市北区紫明通堀川東入  
中 公 益 社 / 京都市東山区五条通東大路東入  
南 公 益 社 / 宇治市横島町(文教大前)  
滋賀公益社 / 大津市朝日が丘一丁目

☎ 075(431)7121(代)  
☎ 075(551)0042(代)  
☎ 0774(20)0042(代)  
☎ 0775(23)0042(代)

# 上京クイズ

前回の正解は

## 大報恩寺本堂（千本釈迦堂）



### 読 者 の 声

○上京は歴史遺産・遺構の宝庫、足利幕府のお膝元に住んでいると思うと胸の熱くなるのを覚えます。

(京極・西村時子)

○クイズを楽しみにしています。クイズのお蔭で今一度、建物の様式等に気

が、実は本文中に二箇所、答が出ていました。一般に千本釈迦堂で知られていますが、京都の市街地で最も古い建

造物として国宝の指定を受けています。桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造の純和様で、棟木の墨書きによって鎌倉時代の安貞元年（一二二七）に建立されたことが明らかです。昭和二十九年の修理に際して、それまで本瓦葺に改められていたのを檜皮葺に復元し、創建当初の優美な姿を取り戻しました。

応仁の乱をはじめ度重なる大火にも焼け残った京都の生証人です。

を付けるようになり、カメラを肩に歩く楽しさができました。

（聚楽・西浜健嗣）

○幕末の動乱と禁門の変は、一冊の本を読んでいるようで、内容が良かったと思います。（桃園・吉野弘）

○禁門の変を熟読し、この時の大火がなければ、もっと多くの文化遺産が残つていただろうにと残念に思います。今まで今一度、建物の様式等に気

が、実は本文中に二箇所、答が出ていました。一般に千本釈迦堂で知られていますが、京都の市街地で最も古い建

造物として国宝の指定を受けています。桁行五間、梁間六間、一重、入母屋造の純和様で、棟木の墨書きによって鎌

（京極・上田富司）

## これはどこでしよう？

○正解の中から抽籤にて二十名の方に記念品をお送りします。

○締切 平成七年四月十五日

○正解と住所・氏名・電話番号を記入の上



### 編集後記

▼前号で増ページを予告いたしましたが。秋の行事のいくつかが繰延べになりました。その報告を次号に譲らざるを得なくなりました。その代わり、本号もオールカラーとし、上京区民のパワーを表現した「京都まつり」と「上京区民ふれあいまつり」の裏方も含めて特集いたしました。



表紙／京都御所で紫宸殿と日本門を背景に演じられる舞楽  
「蘭陵王」  
撮影者／浜岡 昇氏

「上京・史蹟と文化」は、区内の文化や史蹟、学区の文化活動の紹介を通じて、文化とのふれあいの場づくりをはかることを目的として、上京区民ふれあい事業実行委員会と上京区役所が発行し、年二回、上京区全世帯に配布しております。

断ちきろう 身近な差別を 私から

# 裏千家 今日庵

春季特別展

## 三井文庫の名品

—室町三井家の茶道具—

■会期：3月25日(土)～5月10日(水)

午前9時30分～午後4時30分(入館は4時迄)  
月曜日休館(但し5月1日開館)

### ■主な出陳品

- 志野茶碗「銘「卯花墻」(国宝)
- 唐物肩衝茶入「銘「遅桜」(大名物)
- 清拙正澄墨跡(重文)など81点

## 茶道資料館

京都市上京区堀川通寺之内上ル  
裏千家センター内

電話 四三一一六四七四

